

9-5

従来型施設でのユニットケア実践

マザアス東久留米5年間の取り組み

ケアの質の向上

ユニットケア

特別養護老人ホーム マザアス東久留米

発表者：介護支援専門員 小森雅子	共同研究者：特別養護老人ホームスタッフ全員
所在地：東京都東久留米市氷川台2-5-7	
TEL：042-477-7261	E-mail：higashikurume@moth.or.jp
FAX：042-477-7500	URL：http://www.moth.or.jp

今回の発表の施設 またはサービスの 概要	マザアス東久留米は、1995年5月に開設した従来型の特別養護老人ホームです。定員80床、ショートステイ10床、平均介護度4.5と重度の方が多く利用されています。閑静な住宅街に位置しボランティアや家族が多く訪れる地域に開かれた施設です。
----------------------------	---

〈取り組んだ課題〉

- ①めざすケアの共有＝「介護作業員」ではなく、利用者の気持ちに寄り添い、利用者の目線で暮らしを共に創っていくパートナーになるための意識改革
- ②ケアの提供方法の改善＝大規模集団を対象とした分業的、部分的な関わりではなくトータルに利用者に関わる仕組みへ改善。利用者に寄り添うケアを実践
- ③環境づくり＝施設は、職員の仕事場である以前に、高齢者の暮らしの場。「住まい」として環境を見つめ直す
- ④リビング改修＝既存施設の使いにくさ・狭さを解消し家庭的なリビングに改修。環境を活かしたケアを実践

〈具体的な取り組み〉

- 第1期 ユニットケアへの準備（2003年）
ユニットケアの理念の浸透（職員の意識改革のため、懇談会や研修、他施設の見学等を実施）
- 第2期 ユニットケアへの移行（2004年）
①最小限のハードの改修（浴室、多少室の間仕切り、畳みコーナー）
②フロアごとに大食堂1箇所ですべての食事を、3箇所に分散し、介護と生活の単位を小さくした。
③職員を固定配置にし、可能な限り分業を少なくした。その上で、出来るだけ利用者の傍に寄り添うことを意識したケアを実践。
- 第3期 ユニットケアの環境づくり（2005年）
「施設環境づくりへ共同プロジェクト」に参加し、暮らしの視点から施設環境の改善に取り組む
- 第4期 リビング改修工事（2007年）
施設環境づくりの専門家チームによる改修設計と住み

こなしの支援を受け、ユニットの狭いリビング（廊下）を、居心地のよい空間へ改修

第5期 環境を活かしたケアの実践（2008年～現在）

- ①新しいリビングでのユニットごとの暮らしを模索。
- ②マザアス独自のアセスメントシートを作成し、「その人らしさに着目」したケアプランの作成と実践。

〈活動の成果と評価〉

- ・利用者の生活の質が向上した
- ① 職員との馴染みの関係ができ、利用者同士の交流も深まった
 - ② 認知症の方が落ち着いて過ごせるようになった
 - ③ オムツが外せてトイレで排泄できるようになった
 - ④ 自発的な訴えが少なかった方が、発語が増えたり、コールを押し馴染みの職員を呼ぶようになった
 - ⑤ 居心地のよいリビングの環境と、利用者が落ち着ける居場所ができ、食卓に団欒がある。
 - ⑥ 家族と介護員、利用者とのつながりが更に強くなり、小さな事でもお互いに相談しやすくなっている。

〈今後の課題〉

- ① 寄り添うケア、環境を活かしたケアの継続
- ② 利用者主体の「その人らしい暮らし」の支援

〈参考資料など〉

環境づくり実践ハンドブック
認知症高齢者への環境支援のための指針 PEAP 日本語版
ユニットケアのすすめ
ユニットケアマニュアル
成功事例に学ぶユニットケア導入法
ユニットケア実践テキスト 等々

【メモ欄】